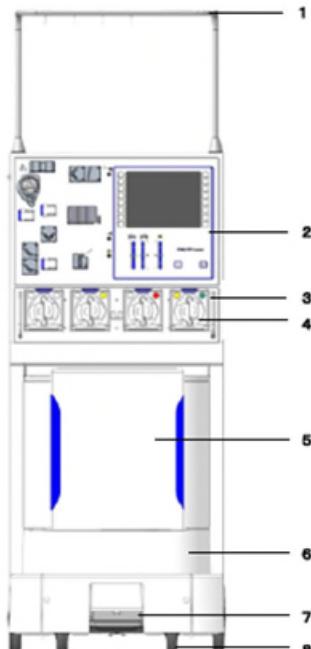


**【形状・構造及び原理等】****<構成>**

- 1) 本体
- 2) 付属品
  - ① チャンバーホルダー (C4、PL1、C5) (チャンバーレストを含む)
  - ② プリンター (ケーブル及びホルダーを含む) (オプション品)
  - ③ ドナーディスプレイ
  - ④ プレッシャーカフ (オプション品)
  - ⑤ プレッシャーインフュージョンカフ (オプション品)
  - ⑥ チューブシーラーホルダー
  - ⑦ フィルターホルダー

**<各部の名称>**

1	IV ラック
2	フロントパネル
3	ブッシュハンドル
4	ラインポンプ
5	遠心器ドア
6	点検カバー
7	ブレーキ
8	前側キャスター

**<作動原理>**

本装置は、患者/供血者から連続的に全血を採血し、抗凝固処理及び除泡を行った後、遠心力を用いて主要な血液成分に分離する。

分離の程度は、インターフェイスの位置、血流と遠心の速度によって決まる。また、その血液成分は、遠心器内で、サイズ、比重によって外側から赤血球-顆粒球-（単球、リンパ球、幹細胞）-血小板の順に分離され、最も内側に血漿が分離される。分離チャンバーには、種々の血液成分のための出口があり、採取を目的とする血液成分以外の成分は、ドリップチャンバー内

で再び混合され、患者/供血者に返血される機構になっている。本装置の分離チャンバーの血液細胞の位置を決めるために、チャンバーに光の通過する一列の穴が付いており、その穴の列によりインターフェイスの境界(外側の細胞分画と内側の血漿分画との境界)が光学的センサーにより自動的に検出される。遠心器の下部に光源があり、このランプから一列の穴に向かって投光され、この穴を通過する光をインターフェイスレシーバー（光学センサー：イメージセンサー）が不透明な細胞と透明な血漿との間の境界（インターフェイス）の位置を検出する。血漿の存在する部分は、光が通過するので、その穴がカウントされ、血球細胞の存在は、光が通過しないので穴がカウントされない。カウントされる穴の数によって、血液の分離程度が確認できる。即ち、チャンバー内の血液細胞の位置(いくつの穴が細胞によって光が遮られるか)を前もって本装置で設定しておけば、実際の分離インターフェイスの位置と比較して、もし穴の数が少なければチャンバー内に血漿が蓄積され、インターフェイスを押し下げができるように血漿ポンプが停止する。こうして、蓄積した目的とする血液成分は、スピルオーバーと呼ばれる、インターフェイスの位置を上昇する工程を経て、血漿の出口ポートを経由して、採血ポンプにより貯留バッグに集積する。

**<電気的定格>**

電源電圧：	100–240 VAC (±10%)
周波数：	50/60 Hz
ピーク電源入力：	最大 700 VA
バッテリー：	鉛蓄電池、電圧 24V、容量 3Ah (停電時の短時間バックアップ用)

**<機器の分類>**

電撃に対する保護の形式による分類：クラス I 機器 (AC 電源使用時)、内部電源機器 (内蔵電源使用時)

電撃に対する保護の程度による装着部の分類：B 形装着部

高周波干渉に対して維持すべき安全距離：1.33m (発信側の公称出力：30mW)

水の有害な浸入に対する保護の程度の分類：IPX1

**【使用目的は効果】**

血液を血小板、リンパ球、白血球、血漿等の血液成分に分離したり、血漿交換を行うことを目的とする。

**【使用方法等】**

- 1) 使用準備
 

本品を適切な場所に設置し、電源コードを商用電源に接続し、装置の電源をオンにする。
- 2) 専用ディスポザブル血液回路（アフェレーシスセット）の装着\*\*
  - ① (Continue) キーを押し、使用するプログラムを選択する。
  - ② すべてのポンプのドアを開ける。
  - ③ (Turn Pumps) キーを押すと、巻き込みピンが (12 時方向で) 自動的に巻き込み位置で止まる。
  - ④ アフェレーシスセットを包装から取り出し、本装置にセットする。
  - ⑤ (Turn Pumps) キーを押すと、ポンプラインが自動的に所定の位置に巻き込まれる。
  - ⑥ 全ポンプドアを閉じる。
  - ⑦ チャンバーホルダーのヒンジドアを開く。
  - ⑧ ラインのよじれを無くして、分離チャンバーをチャンバーホルダーに装着する。

取扱説明書を必ずご参照ください。

\*使用するプログラムにより、採取・分離する血液成分は異なり、また装着するアフェレーシスセットも異なる。詳細は次表を参照すること。

プログラム名	内 容	使用するアフェレーシスセット
PBSC Lymphocyte	末梢血幹細胞やリンパ球、血漿の分離採取	C4Y
RV-PBSC	少量に濃縮された末梢血幹細胞の採取	RVY
BMSC	骨髄からの幹細胞の分離採取	P1Y
Granulocyte	顆粒球の採取	P1Y
MNC	単核球の採取、血漿の分離採取	P1Y

### 3) プライミングの実施

- ① (Continue) キーを押して、ACD-A バッグを、セットする。
- ② 生食バッグをセットする。
- ③ (Prime) キーを押し、プライミングを開始する。プライミングは自動的に行われる。(プライミングが必要ない場合は (No Prime) キーを押す。)

### 4) 分離

- ① 生食ラインを完全に脱気し、ディスプレイに従って分離前の準備を行う。
- ② 单針法の場合は、カフを供血者/患者の上腕に装着する。
- ③ (Continue) キーを押して、採血針を供血者に穿刺し、供血前サンプルを採取する。返血針を穿刺する。
- ④ 患者情報を入力する。
- ⑤ (Start) キーを押して分離を開始する。分離及び採血は自動的に行われ、目標設定値に達すると自動的に終了する。

### 5) 返血

- ① 血液回路に残った血液成分を供血者/患者に戻すために、(Continue) キーを押して、生食ラインのクランプを開放し、供血者から採血ラインを外して返血前の準備を行う。(单針法の場合は採血ラインを外さない。)
- ② (Start) キーを押し、返血を開始する。返血は自動的に行われ、終了する。
- ③ 返血終了後、(Stop) キーを押す。

### 6) アフェレーシスセットの取り外し

- ① 返血ラインの停止クランプを閉じ、血漿バッグのクランプを閉じる。
- ② (Continue) キーを押して、供血者から返血ラインを外す。
- ③ (Continue) キーを押して、アフェレーシスセットを装置から外す。
- ④ 電源をオフにする。

## 【使用上の注意】

### <重要な基本的注意>

- ・可燃性麻酔剤・可燃性ガス及び可燃性物質が存在する場所では使用しないこと。また、装置の清浄化に可燃性の洗剤、消毒剤等は使用しないこと。[引火、爆発のおそれがあるため。]
- ・本装置のポンプローター部には潤滑油を使用しないこと。
- ・室温が 30°C を超える場所や直射日光が当たる場所では、装置が使用中に警報を発して作動が停止したり、分離チャンネル内の血液温度が 40°C を超えたりするおそれがあるので使用しないこと。
- ・治療に必要な時間・量を超えないように注意すること。
- ・本体及び供血者/患者に異常が発見された場合には、患者に安全な状態で作動を止めるなど適切な措置を講じること。
- ・スイッチの接触状態、極性、設定などの点検を行い、本体が正確に作動することを確認すること。
- ・他の機器との併用は診断を誤らせたり、予期せぬ事象を生じたりするおそれがあるので、使用に際しては充分に安全を確認すること。

・ディスポーザブル回路の装着に際しては、回路の各部を確実に接続し、回路のよじれ及び閉塞などの障害発生に注意すること。

- ・使用前にプライミングを行わないと、回収血液の濃縮処理工程に支障をきたすことがあるので注意すること。
- ・ディスポーザブル回路の装着前に、ポンプ内部及びポンプハウジングやローターローラーに塵や異物が付着していないことを確認すること。[ローターの圧迫により、回路のポンプセグメントが傷ついてリークを起こすおそれがあるため。]
- ・遠心器の作動中は、遠心器に手を触れないこと。
- ・ポンプローターの回転中に、ポンプに手を触れないこと。
- ・故障などに起因して、作動中に遠心器の蓋が突然開放することがあるので十分注意すること。
- ・作動中に停電等で電源が OFF になった後、再びプログラムを続行する場合には、電源の遮断により監視システムがリセットされているので、体外循環量を監視すること。

## 【保管方法及び有効期間等】

### <保管方法>

- ・水のかからない場所に保管すること。
- ・気圧、周囲温度 (-15~+50°C)、風通し、日光、ほこり、塩分、硫黄分を含んだ空気などにより悪影響の生じる恐れのない場所に保管すること。
- ・傾斜 (10° 以内)、振動、衝撃 (運搬時を含む) など安定状態に注意すること。
- ・化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に保管しないこと。

### <耐用期間>

7年（自己認証による）

ただし、使用上の注意を遵守し、指定した保守点検を実施した場合

## 【保守・点検に係る事項】

### <清浄>

- ・装置を OFF にし、商用電源からコンセントを抜く。
- ・各部の清浄には希釈した洗剤を使用する。
- ・各センサーの窓、光源は常に清浄にしておくこと。清浄の際にセンサーを汚損しないように十分注意すること。
- ・ポンプローターのローラーが回りづらいときは、温水中で洗浄しながらローラーを繰り返し回転させて洗浄すること。またその際、ローラーに付着した塵や異物もきれいに洗い流すこと。
- ・ポンプハウジングは水で湿らせた布で拭き取った後、充分乾燥させる。
- ・遠心器の汚れは適度に湿らせた布で拭き取った後、さらに乾いた布で水分を十分に拭き取る。
- ・付属品・コード等は清浄した後、整理してまとめておく。
- ・次回の使用に支障のないよう必ず清浄にしておくこと。

### <保守・点検>

- ・本体及び部品は必ず定期点検を行うこと。少なくとも 1 年に 1 回又は 100 時間ごとに（いずれか早いほう）指定のサービススタッフによる検査を勧めます。
- ・回路図、スペア部品リスト、解説、調整説明書、その他の書類が必要な際には販売業者に請求すること。また、それらの資料は適切な資格をもった専門スタッフの参考資料としてのみ使用すること。尚、保守作業については販売業者へ連絡すること。
- ・しばらく使用しなかった本体を再使用するときには、使用前に必ず本体が正常かつ安全に作動することを確認すること。本品を 6 ヶ月以上使用していない場合は、内蔵電池の充電を行うこと。標準的な充電時間は、商用電源に接続し、電源を投入した状態で 10 時間程度必要とする。
- ・故障した際は販売業者に連絡すること。

取扱説明書を必ずご参照ください。

**【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】**

<製造販売業者>



フレゼニウスカービジャパン株式会社

<https://www.fresenius-kabi.com/jp/>

<外国製造業者>

Fresenius Kabi Deutschland GmbH Gruener Weg (ドイツ)

<販売業者>

株式会社リレート

電話番号：072-940-6804

サイバーセキュリティに関する情報請求先

<製造販売業者>と同じ

取扱説明書を必ずご参照ください。